

内装材を再利用して生産したプランターカバーと、サインスタンド「モレラ岐阜」

# 退店テナントの内装材を再利用



【西濃】商業施設などの空間づくりを手掛けるスペース（本社東京都）は25日、

商業施設のテナント退店時に発生する内装材を用いて新たな器具を生産する取り組みを始めたと発表した。第1弾として、商業施設「モレラ岐阜」（本巢市）で退店したテナントの内装材を用いてプランターカバーとサインスタンドを製

作。同施設の1階共用部に設置している。

通常、商業施設のテナントは退店時に壁面装飾や棚板を残す。新たに入るテナントは残された内装材を廃棄する場合が多い。退店するテナントが内装材を他店舗で利用する場合もあるが、再利用の範囲が限定される。

スペースは2023年に

廃棄物の発生を抑えた空間づくりを目指す「リプロダクト推進室」を設立。同室の提案により、犬山工場（犬山市）で内装材を用いてプランターカバーやスタンドなどを製作した。既成品より割高だが、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献する製品としてアピールする。

リプロダクト推進室の龍澤知佳室長は「SDGsを意識する商業施設が増えている。理念に賛同する施設と、リプロダクトの取り組みを進めたい」と話した。

